

がん情報ナビゲーター

Know (≠No) More Cancer

CIN : Cancer Information Navigator

養成講座第 8 期生募集要綱・実施要綱



平成 24 年 7 月 6 日開講

- 受講申込開始は平成 24 年 5 月 7 日より -

割引申込期間：平成 24 年 5 月 7 日～7 月 31 日
通常申込期間：平成 24 年 8 月 1 日～12 月 14 日

がん情報ナビゲーター養成講座は、

「オンデマンド・ウェブ・ラーニング・システム」を用いた

「日本を代表する講師陣」による

「いつでも」、「どこでも」、「最新のがん医療情報」を学ぶ養成講座です。

第 8 期では、「より最新のがん医療情報（ASCO 2012 の発表など）」

を学ぶ事ができます。受講申し込みは、「<http://www.29-4153.com>」から。

養成講座実施責任者：NPO 法人がんネットジャパン 理事長 岩瀬 哲

養成講座実務責任者：NPO 法人がんネットジャパン 事務局長 柳澤 昭浩

養成講座プログラムアドバイザー：日本臨床腫瘍学会 特別顧問 西條 長宏

養成講座プログラムアドバイザー：東京大学大学院医学系研究科生物統計学 教授 大橋 靖雄

実施要綱作成：NPO 法人がんネットジャパン

企画/運営：NPO 法人がんネットジャパン

企画協力/運営：株式会社日本医療事務センター・メディアサイト株式会社

後援/協力：NPO 法人日本臨床研究支援ユニット・NPO 法人日本メディカルライター協会

財団法人パブリックヘルスリサーチセンターJPOP 委員会 ONCOLOGY 部会

目次・・・(P2)

1. がん情報ナビゲーター養成講座受講者の声 / FAQ・・・(P3)
 2. 背景・・・(P4)
 3. 目的・・・(P 6)
 4. がん情報ナビゲーター養成講座受講資格・・・(P6)
 5. 受講料・・・(P7)
 6. 申込期間・・・(P7)
 7. 受講申し込みから受講開始までの手続き **【重要!!】**・・・(P8)
 8. がん情報ナビゲーター養成講座概要・・・(P8)
 9. 養成講座講義受講方法 **【重要!!】**・・・(P9)
 10. がん情報ナビゲーター修了要件・・・(P9)
 11. がん情報ナビゲーター認定試験概要・・・(P9)
 12. 認定がん情報ナビゲーター養成講座運営形態・・・(P9)
 13. がん情報ナビゲーター養成講座プログラムの評価・・・(P10)
 14. がん情報ナビゲーター養成講座実施責任法人及び代表者・・・(P10)
 15. がん情報ナビゲーター養成講座実施実務責任者・・・(P10)
 16. がん情報ナビゲーター養成講座プログラムアドバイザー・・・(P10)
 17. 認定後の各種手続きと継続要件等・・・(P10)
 18. 認定後の活動の可能性・・・(P10)
 19. 第8期生がん情報ナビゲーター養成講座カリキュラム・・・(P11)
- 【引用参考文献・Website】・・・(P12)

1. がん情報ナビゲーター養成講座受講者の声 / FAQ

☞ 改發 厚さん（会社員・精巣腫瘍体験者）：CIN 養成講座第 5 期修了生



私は 2004 年 5 月に精巣腫瘍に罹患し、1 年半の闘病を経て、社会復帰しました。その後はホームページ、ブログを通じて、個別にピアサポートを行っていました。当時は同じ精巣腫瘍の患者さんからの問い合わせのみでしたが、それでも私の経験以外のことはサポートできず、精巣腫瘍全般の知識はありませんでした。

またいつしか、ウェブを検索してたどり着いた、精巣腫瘍以外のがん罹患患者、家族からの問い合わせも増えてきました。それも精巣腫瘍で使われている抗がん剤が他のがんでも使用されているため、病状の進行具合や副作用の件など、精巣腫瘍以外のほかのがんの知識も持ち合わせていないと、正しい対応ができない状況に立たされたのです。

こうして CIN を受講したわけですが、その後は様々ながん疾患啓発イベントなどで、他のがん罹患された方との会話もスムーズに行き、悩みを共有し、共感できるようになり、ときにはイベント終了時に感謝の言葉を頂くこともありました。

受講に際しては、自己管理を徹底する必要がありますが、逆に自由な時間とWEB環境を利用し、自分に負担のない受講ができたことは本当にありがたかったです。これからも CIN を受講した体験者として、多くの人のお役に立てたらなと思ひ、活動を続けて行きたいと思っています。

☞ がん情報ナビゲーター養成講座 FAQ

Q1. がん情報ナビゲーター養成講座とはどんな講座ですか？

2007 年 6 月閣議決定された「がん対策基本計画」には、「今後は、基本計画に基づき、国及び地方公共団体、また、がん患者を含めた国民、医療従事者、医療保険者、学会、患者団体を含めた関係団体及びマスメディア等（以下「関係者等」という。）が一体となってがん対策に取り組み、がん患者を含めた国民が、進行・再発といった様々ながんの病態に応じて、安心・納得できるがん医療を受けられるようにするなど、「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がん向き合い、がんを負けることのない社会」の実現を目指すこととする。」と旨がされています。

異なる立場の方々共同し、この目的を達成するためには、がんに対する一般的知識、その他がん医療情報に関する知識、及び最新の情報にアクセスするスキルは最低限の必要条件になります。

この講座では、これら異なる立場の方々、それぞれの立場でがん医療に関与するための「がん医療情報」に特化した養成講座になっています。

Q2. どのような方が受講されていますか？

2007 年 4 月より開講した 1 期～7 期受講生には、様々な立場の方々に受講頂きました。

- ・がん診療を行う医療機関、がん診療連携拠点病院などで患者・家族相談にあたる方々
- ・がん診療を行う医療機関に勤務する医療者の方々（看護師・薬剤師・ソーシャルワーカーなど）
- ・がん患者団体等でピア（体験者）の立場として患者相談などの活動をされている方々
- ・がん患者（がん体験者）を持つ家族・遺族で、今後がん医療に関りを持ちたいと考える方々
- ・製薬企業で営業・開発・教育研修を担当している方々
- ・民間企業（生命関連企業など）で、カスタマーサービス等を担当している方々
- ・医療、社会保障、科学等を担当する（興味を持つ）マスメディアの方々

Q3. 認定者・修了者は、どのような形で活動されていますか？

受講生のほとんどは仕事を持ちながら、本養成講座を受講され、修了・認定後はご自身の仕事の中で、本プログラムで習得されたがん医療情報の基本的知識、最新の情報へのアクセスのスキル等を活用頂いております。

今後は、Q1 の説明にもあるように、病院や公的機関だけでなく、民間企業等様々なところで、がん医療情報の基礎的知識を有する人材のニーズが高まると考えられます。

Q4. 養成講座はどのような受講形態ですか？

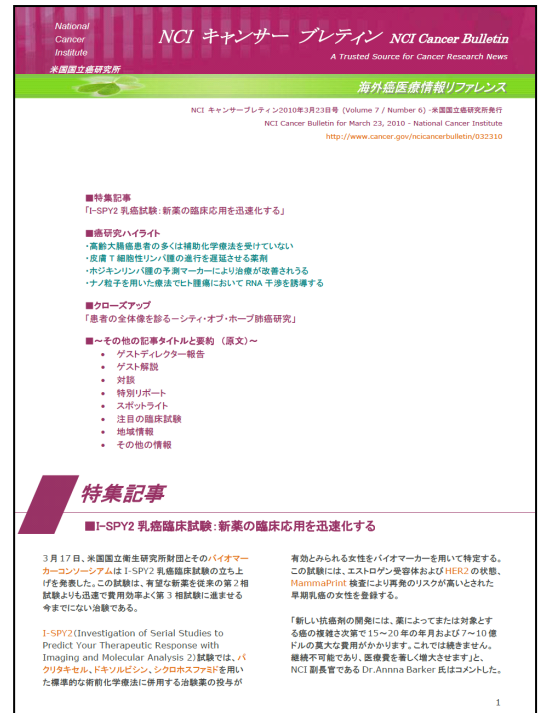
がん情報ナビゲーター養成講座は、オンデマンド・ウェブ・ラーニング・システムによるインターネットを用いた養成講座となります。ご自宅・職場などで、LAN 環境にある PC があれば「日本を代表する講師陣」による「最新のがん医療情報」の講義を、「いつでも」、「どこでも」、受講可能です。

※【受講者特典】※

CIN（がん情報ナビゲーター）・BEC（乳がん体験者コーディネーター）養成講座を申込頂いた方には、一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツが、NCI（米国国立がん研究所）から翻訳許諾を得て翻訳するNCI Cancer Bulletinの日本語版を、いち早く皆さんに配信します。

NCI Cancer Bulletinは、National Cancer Institute（米国国立がん研究所）より2週間毎に発行されるホームページ上で公開される最近の「がん」に関する重要な論文・発表を紹介するonline情報誌です。

注：「NCI キャンサーブレティン日本語版」の翻訳に関しては、細心の注意が払われていますが、一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ及び、NPO 法人キャンサーネットジャパンは、その正確性、安全性について保証するものではありません。同様に、翻訳文中にあるリンクに関しても、リンク先の情報を保証するものではありません。また、記事中に紹介される薬剤・治療法には、本邦における未承認薬、及び適応・用法用量外に関する情報も含まれていることをご留意頂き、これらの情報に基づき生じる一切の医療上の責任を負いません。なお、翻訳文の著作権は一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツに帰属します。



2. 背景

がん情報ナビゲーター（CIN）養成講座8期は、これまで開講してきた1期～7期の背景に加え、がん対策推進基本計画も6年目を迎え、後述する「今後は、基本計画に基づき、国及び地方公共団体、また、がん患者を含めた国民、医療従事者、医療保険者、学会、患者団体を含めた関係団体及びマスメディア等（以下「関係者等」という。）が一体となってがん対策に取り組み、がん患者を含めた国民が、進行・再発といった様々ながんの病態に依りて、安心・納得できるがん医療を受けられるようにするなど、「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんと向き合い、がんに負けることのない社会」がより進められるため、がん対策推進に関わる関係者が知っておくべき「がん医療情報」、「がん医療環境」に特化した講座としています。

（1）日本におけるがん医療環境と現状

直近の統計では、日本におけるがん罹患全国推計値は676,075人（2005年）、また死亡者数は344,105人（2009年）となっており、今後も増加が予測されている¹⁾。

一方、欧米、特に米国においては官民一体となった早期診断・早期治療の普及・啓発、臨床試験の普及・啓発・実施、それらから得られる標準的治療の普及により、死亡率に歯止めがかかり、乳がんなど特定のがん種においては、死亡率の低下を達成している²⁾。

日本におけるこのような現状は、様々な要因に起因すると考えられるが、医療者向けのがん情報、国民・患者向けのがん情報を提供・共有するシステム構築の遅れが大きな要因の一つと考えられている。これらが近年本邦で問題となる科学的根拠に基づくがん医療（いわゆるガイドラインや標準的治療など）の普及を阻害し、がん医療の地域間格差を生じていると考えられる。結果的に、良質ながん情報にたどり着けない、実施されるべき治療にたどり着けないという「がん難民」を生み、医療消費者であるがん患者及び家族の満足度は低いものとなっている³⁾。

事実、本邦において全国統一のがん登録制度はなく、日常臨床下においてどの施設で、特定のがん種に対し、どのような治療が実施され、どのような治療成績であるかを、共通の基準で比較検証する事は不可能であり、この点も科学的根拠に基づくがん医療（いわゆるガイドラインや標準的治療など）の普及を阻害する大きな要因の一つと言われている。

このような問題は、医療者の間においても指摘されており、向井らの報告によると、国立がんセンター東病院を受診した「乳がん遠隔転移・遠隔再発例」の78症例（2003年2月からの2年間）の、「標準治療が的確に実施されたか」、「実施された治療法が妥当であるか」についての検討では、45%の症例が「標準より

かなり外れる治療」、「害をもたらす可能性のある治療」を受けていた⁴⁾。また、渡辺らによる山王メディカルプラザのセカンド・オピニオン外来を、2003年9月からの2年間に訪れた乳がん患者175名の評価においても、41%の患者が「標準的ではなく推奨できない」、「標準治療ではなく患者は不利益を被っている」と報告されている⁵⁾。

(2) 近年のがん医療の変化

以上のような状況を鑑み、国家レベルの取り組みとしては、厚生労働省は国立がんセンターを中心とし、各都道府県にがん診療連携拠点病院の設置を進める他⁶⁾、2006年10月には医療者向け、患者向けの「がん対策情報センター」を開設し、「がん対策推進」を図っている⁷⁾。また、2007年4月からは、これらの問題解決を更に加速させる役割を持つ「がん対策基本法」も施行され⁸⁾、同年6月には「がん対策推進基本計画」も閣議決定されるに至った⁹⁾。一方、民間レベルにおいても、2005年5月大阪にて開催された「第1回がん患者大集会」をきっかけの一つとして、各地のがん患者団体・がん患者支援団体の活動も活発化している。

以上のような背景により成立した「がん対策基本法」の基本理念にもある「科学的知見に基づく適切ながんに係る医療を受けることができるようにすること」、「がん患者の置かれている状況に応じ、本人の意向を十分尊重してがんの治療方法等が選択されるようがん医療を提供する体制の整備がなされること」を広く実現するためには、医療提供側・医療者のみの変革だけでなく、同時に患者が医療消費者として、信頼性の高い情報にたどり着き、情報を理解し、患者が主体的に治療を選択できる環境の構築も必要となる。実際に、がん診療連携拠点病院の相談支援センターに求められる重要な役割の一つとして、最上位に「各がんの病態、標準的治療法等がん診療に係る一般的な医療情報の提供」の項目が掲げられている¹⁰⁾。

(3) がん患者・家族・国民が置かれた環境

しかしながら、医療消費者として、患者が主体的に情報を入手し、治療法を選択する事は、種々の要因により大変困難な状況にある。これは、いかなる製品・サービスの中においても、提供側・需給側の「情報の非対称性」¹¹⁾が大きい場合に顕著に現れると言われており、まさに医療（特になん医療）はこれに該当すると思われる。このような環境下においては、市場経済を例に取れば、逆選択（正しい選択ができない）、モラルハザードのリスクも生じると言われている。

米国を例に取れば、患者が良質ながん医療情報を得るために、種々のインフラが整備されている。国家レベルでは、米国がん研究所（National Cancer Institute）が提供するウェブサイトでは、医療者向け、患者向けのがん種毎の一般情報、病期毎の治療情報、その他有益な情報が提供されている¹²⁾。民間レベルにおいても、NCCN（National Comprehensive Cancer Network）においては、腫瘍毎のdecision treeを用いたガイドライン等が提供されている¹³⁾。更に、米国対がん協会（American Cancer Society）¹⁴⁾、Pan Can（Pancreatic Cancer Action Network）¹⁵⁾、Lance Armstrong Foundation¹⁶⁾などの、がん患者団体、がん患者支援団体においても、独自のがん情報の提供を行っており、米国対がん協会においては、24時間体制の電話・メールによる相談窓口（Cancer Information Center）も開設している¹⁷⁾。

加えて、前述した医療、特になん医療においては、医療者側と患者間の「情報の非対称性」が大きい事、また個別性が高い事から、良質で信頼性の高い情報を提供するインフラの整備だけでなく、それらの情報を、医療消費者である患者に理解できる言葉・言語に翻訳する、すなわち通訳者の存在も重要と考えられている。腫瘍専門医、腫瘍専門看護師、腫瘍専門薬剤師などの専門職が多数活躍する米国においてさえ、患者・国民ががん医療情報について相談する窓口は、国家レベル・民間レベルにおいても用意されている。

一方、日本においては、2006年10月に「がん対策情報センター」が開設され日々情報が追加・更新されているものの、これらの情報が広く、必要な患者・家族に届けられてはいない。また、がん関連学会編集による診療ガイドラインも、米国では全ての国民が最新のものに無償でアクセスできる環境であるのに対し、本邦においては有償での書籍販売（最新版）であり、一般書店での購入も困難であるなど、その普及は十分とは言えない。又、これまでも問題となり各関係団体の整備は進んできているが、未だ認定がん治療専門医、専門看護師、薬剤師他は、あまりにも少ない上、患者・国民がアクセスできる相談窓口も、国家レベル・民間レベルにおいても十分整備されているとは言い難い状況にある。

また、急速なインターネットの普及により、がん患者・家族のアクセスが急増し、医療情報・がん医療情報の入手は容易になったものの、専門知識なく一般的な検索ワードを検索エンジンに用い調べる場合、その検索結果数は数十万から数百万という膨大なものであり、それらの情報についての重み付け、信頼性の評価はほぼ不可能に近いといって良い状況にある。

(4) がん患者・家族が直面する問題

ところで、がん患者・家族が「がん」と診断され直面する問題は、3つに大別される。一つは、自身の治療上の決定における医療情報、各種治療の自身への影響、すなわち効果・有害事象（副作用）など体への影響、「Physical な問題」、2つ目は「がん」という診断に対する不安、治療の効果・有害事象（副作用）などに対する不安、生活・将来への不安などの「Mental な問題」、3つ目として、高騰化する医療費に関わる経済的な問題の他、医療制度に関する問題、すなわち「Social な問題」である。

いずれも重要な問題であるが、「がん対策基本法」の理念である「科学的知見に基づく適切ながんに係る医療を受けることができるようにすること」、「がん患者の置かれている状況に応じ、本人の意向を十分尊重してがんの治療方法等が選択されるようがん医療を提供する体制の整備がなされること」を考慮すれば、患者・家族にとって最も重要な問題で解決される問題は、1のPhysical な問題であると思われる。

(5) がん対策推進の取り組み

厚生労働省においては、がん診療連携拠点病院にて、これら種々の問題に対応する患者・国民向けの「相談支援センター」の設置を求め、各がん診療連携拠点病院で「相談支援センター」が機能するよう「相談支援センター相談員講習会」等が実施されるに至り、また、民間レベルにおいても当法人などが実施する養成プログラムを初め複数の試みも始まっているが、官民共にその質と量において、未だ十分とは言えない状況にある。

前述した「がん対策基本計画」には、「今後は、基本計画に基づき、国及び地方公共団体、また、がん患者を含めた国民、医療従事者、医療保険者、学会、患者団体を含めた関係団体及びマスメディア等（以下「関係者等」という。）が一体となってがん対策に取り組み、がん患者を含めた国民が、進行・再発といった様々ながんの病態に応じて、安心・納得できるがん医療を受けられるようにするなど、「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がん向き合い、がんを負けることのない社会」の実現を目指すこととする。」と言及されている。すなわち、これまで行政、医療者主体で進められてきた「がん対策推進」に、がん患者を含めた国民他、様々な立場の団体・関係者が関与するよう求められている。

今後、がん患者・家族のニーズに応じた「がん医療対策」を進める上においても、また実際に、がん患者・家族が求め、提供されるべき医療情報・サービスを提供するためにも、医療者のみならず、「がん対策推進」に関する者が、「各がんの病態、標準的治療法等がん診療に係る一般的な医療情報」等についての知識を有する事は必要最低限の要件となると思われる。

このような背景より、本講座では、「がん医療対策推進」に関する者（関わろうとする者）を対象に、科学的根拠に基づいた良質で、信頼性の高いがん医療情報を理解し、またその時々最新のがん医療情報にアクセスし、かつそれらの医療情報を患者の言葉に換える事のできる「認定がん情報ナビゲーター」の人材養成講座を計画スタートするに至った。

3. 目的

がん患者・家族及び国民が「がん」と診断され直面する問題（主として、がん医療情報に関する問題）を、解決できる・あるいは解決に導く既存の信頼性の高い情報にアクセスし、提供できる人材を養成する。「がん情報ナビゲーター」は、がん医療情報に特化したものとする。

本養成講座により「がん情報ナビゲーター」を養成・輩出し、国が掲げる「がん対策推進」に寄与し、日本における民間組織（NPO 法人）の役割を果たし、これをもってがん医療へ貢献することとする。

4. がん情報ナビゲーター養成講座受講資格

インターネット及びE-mail（携帯電話は不可）使用、E-mailによるWord・PDFファイル等添付送受信が可能な環境があり、代表的な検索エンジン（Yahoo など）が使用でき（あるいは、受講前までにこの条件を満たす事ができる）、受講前に本養成講座のオンデマンド・ウェブ・ラーニング・システム^{注）}が利用可能で、且つ、以下のいずれかに該当する者とする。なお、事務局からの事務連絡は原則として、すべてE-mailの一斉配信で行われる。但し、Gmail、Yahoo mail等のフリーメールをご使用の方は、事務局からの連絡が迷惑メールフォルダ、ごみ箱等に振り分けられる事例があり、この点ご留意下さい。

注）ウェブ・ラーニング・システムが利用可能かどうかは、[後記のURLで既にアップロードされているコンテンツが問題なく再生可能である事を確認すること。](#)

CNJ がん情報ビデオライブラリー <http://www.cancernet.jp/video>

本養成講座では、受講者に対する個別のパソコン環境、動作環境に関する問い合わせには対応できませんので、上記の通り、受講前に必ずコンテンツが再生可能であるかどうかの確認をすること。以下は、ウェブ・ラーニング・システムに必要なパソコン環境の情報である。

Windows PC および Macintosh とも Safari、Firefox、Chrome 等のブラウザを使用する場合はマイクロソフトの Silverlight をインストールする必要があります。マイクロソフトのサイトからダウンロードするか、以下のキャンサーネットジャパンの URL (<http://www.cancernet.jp/video>) よりインストールして下さい。

ビデオは以下のパソコン環境でご覧下さい。

■回線速度：350kbps 以上

■OS / 【Windows の場合】 2003, 2008, XP, Vista, Windows7 【Macintosh の場合】 Mac OS 10.4.8 以降

■ソフトウェア / ブラウザ: 【Windows の場合】 Internet Explorer 6.0 SP1 以降、FireFox2.0 以降、Google Chrome 1.0, Windows Media Player9 以降。【Macintosh の場合】 Safari 2.0.4 以降、Firefox 2.0 以降 ※Macintosh の場合あるいは Windows で Internet Explorer 以外のブラウザを使用する場合は Microsoft Silverlight1.0 以上が必要です。

■ハードウェア / CPU: Pentium4 800MHz 以上 または PowerPC G3 以上 メモリ: 512MB 以上 (Vista の場合は 1GB 以上)

5. 受講料（消費税込み）

種別	割引申込期間 (平成 24 年 7 月 31 日まで)	通常申込期間 (平成 24 年 12 月 14 日まで)
一般	¥120,000-	¥140,000-
学生 ^{注)}	¥80,000-	¥100,000-

但し、5 名以上で受講申し込みを行う場合は、受講料の優遇制度を適応致しますので、事前に株式会社日本医療事務センター ニック教育講座までメールにてお知らせ下さい（メール：kyouiku@nicjp.co.jp）。

^{注)} 現在、高校・専門学校・短大・四年制大学に在学中の方（学生証の提示が必要な場合あり）。なお、受講後に虚偽の申し込みが発覚した場合、正規料金を申し受けます。

【CIN1 期～7 期既受講生・修了生に対する受講料特典】

既に、CIN 養成講座の 1 期～7 期を受講・修了された方々に対する受講料特典制度です。各領域における最新情報のキャッチ・アップにご利用下さい。また、本講座を受講された方は、CIN 認定継続要件を満たすものとします。但し 6・7 期は総合コースの既受講生のみが対象です。申し込み期間による割引は適用しません。

	CIN2 回目の受講	CIN3 回目以降の受講
受講料	¥70,000 (正規料金の 50% off)	¥35,000- (正規料金の 75% off)

6. 申込期間

・割引申込期間：平成 24 年 5 月 7 日～7 月 31 日 ・通常申込期間：平成 24 年 8 月 1 日～12 月 14 日

前項の通り、割引申込期間（平成 24 年 7 月 31 日まで）と、通常申込期間（平成 24 年 8 月 1 日～12 月 14 日まで）は、受講料が異なりますので、ご注意下さい。

7. 受講申し込みから受講開始までの手続き【重要!!】

(1) 申し込み方法

前項 6.の申し込み期間内に、株式会社日本医療事務センターホームページ、あるいはファックスにてお申し込み下さい。

ホームページ <http://www.29-4153.com>

ファックス番号 03-3526-6519

なお、申し込み時に支払い方法を選択頂きます。支払い方法は、一括払いと分割払いの選択が可能です。

一括払い：郵便局の窓口、または最寄りのコンビニエンスストアで支払い。

分割払い：学費ローン（3・6・10・12 回払いから選択可能）。

(2) 受講申し込み受付

申し込みを頂いた方には、「開講通知」、「受講料の支払い案内・振込用紙（あるいは学費ローン申し込み用紙）」を郵送します。また、オンデマンド・ウェブ・ラーニング・システムを受講頂くための「受講 ID」と「パスワード」を発行します。

(3) 受講料支払い方法

郵送された「振込用紙（あるいは学費ローン申込用紙）」に従い、お支払い下さい。以上で申し込み手続きは完了です。

(4) 受講開始

後述する受講方法に基づき、受講を開始して下さい。

8. がん情報ナビゲーター養成講座概要

LAN 環境にあれば「いつでも」、「どこでも」、「最新のがん医療情報」を学べるオンデマンド・ウェブ・ラーニング・システムを用いた、「日本を代表する講師陣」による養成講座です。

講義は、各領域を代表する講師陣により、がんの病態生理、がん医療が行われる上で知っておくべき各種規定、EBM とガイドライン、主たるがん種の診断・治療、インターネットを用いたがん医療情報の収集などで構成されています。

開講（受講）期間は、平成 24 年 7 月 6 日～平成 25 年 3 月 29 日で、お申込み頂いた講義を視聴することができます。

原則 60 分/1 講義（一部講義は 90 分/1 講義）を 1 コマとし、この間にお申し込み頂いたコースの講義の視聴が可能です。

9. 養成講座講義受講方法【重要!!】

(1) 受講環境の準備

パソコンをインターネットに接続し、以下の URL にアクセスして下さい。

<http://cancernet.jp/cin.html>

(2) CIN8 期バナーをクリック

<http://cancernet.jp/cin.html> の画面上に表示される CIN8 期のバナーをクリックして下さい。受講ログ

イン画面へ進みます。ログイン画面では、「ユーザー名」と「パスワード」が求められます。「ユーザー名」には、事前にお知らせする「受講者アカウント」を、「パスワード」には「受講者パスワード」を入力します。「ユーザー名」、「パスワード」を入力完了後、「ログインボタン」をクリックして下さい。講義視聴画面が表示されます。

(3) 講義資料 (PDF) のダウンロード

- ①はじめに講義視聴画面の各講義の「Links」をクリックして講義資料のタイトルを表示させて下さい。
- ②講義資料のタイトルをクリックすると「ユーザー名」と「パスワード」の入力画面が表示されます。
- ③講義資料のタイトル下（または横）に記載されている講義資料ダウンロード用の「ユーザー名」と「パスワード」を入力して下さい。PDF データが表示されます。

(4) 講義の視聴

講義視聴画面の講義名のタイトルをクリックし、視聴を開始して下さい。

10. がん情報ナビゲーター修了要件

本講座の修了要件は、オリエンテーションを含む全 30 コマの受講（視聴）とします。本条件を満たす受講生には、修了証を発行します。なお、講義視聴履歴の管理、及び責任は受講者各自に委ねられます。

11. がん情報ナビゲーター認定試験概要

この認定試験は、NPO 法人がんネットジャパンが実施する「がん情報ナビゲーター認定試験」です。

がん情報ナビゲーターに求められる能力は、「がん患者・家族及び国民が「がん」と診断され直面する様々な問題を解決できる、あるいは解決に導く既存の信頼性の高い情報にアクセスし、提供できる人材」とします。

本試験は、「科学的根拠に基づく医療情報」、「信頼性の高い医療情報」にアクセスし、回答を得る能力を確認する試験です。

■認定試験の案内：試験実施要綱、及び受験申込書等は、年明け（平成 25 年 2 月）より順次、受講者に送付する予定です。

■受験資格：総合コースを履修しており、且つ、全 30 講義を平成 25 年 2 月末日までに視聴済みの方

■受験申込期間：平成 25 年 3 月 1 日 9 時～3 月 15 日 17 時

■受験日：平成 25 年 3 月 30 日（土）午前 9 時～3 月 31 日（日）午後 9 時まで

■受験料：税込 10,000 円

■受験方法：「siken-taisaku.com」へ委託し、インターネット上で実施されます。認定試験は、上記公開 36 時間のうち受験者の都合の良い任意の 3 時間以内で受験して下さい。

■合否判定：本試験の合否基準は、「科学的根拠に基づく医療情報」、「信頼性の高い医療情報」にアクセスし、回答を得る能力のみであり、受験者間での相対評価、事前の合格者数の設定は行なっていません。また、合否に関する個別の問い合わせ、合否基準に関する問い合わせには対応致しません。

■認定証：認定試験合格者には、がん情報ナビゲーター認定証を発行致します。なお、認定試験不合格で、再受験を希望する場合は、次クール（9 期）以降の受験が可能です。合否発表は、**平成 25 年 4 月 15 日（月）**を予定しています。

12. がん情報ナビゲーター養成講座運営形態

- ・企画/運営：NPO 法人がんサーネットジャパン
- ・企画協力/運営：株式会社日本医療事務センター・メディアサイト株式会社
- ・実施要綱作成：NPO 法人がんサーネットジャパン
- ・後援/協力：NPO 日本臨床研究支援ユニット・NPO 日本メディカルライター協会・財団法人パブリックヘルスリサーチセンターJPOP 委員会 ONCOLOGY 部会

13. がん情報ナビゲーター養成講座プログラムの評価

養成講座のプログラム評価は、NPO 法人がんサーネットジャパンのアドバイザリーボードメンバー、及び外部有識者により養成講座クール（期）毎に検討する事とします。

14. がん情報ナビゲーター養成講座実施責任法人及び代表者

NPO 法人がんサーネットジャパン 理事長 岩瀬 哲

15. がん情報ナビゲーター養成講座実施実務責任者

NPO 法人がんサーネットジャパン 事務局長 柳澤 昭浩

16. がん情報ナビゲーター養成講座プログラムアドバイザー

- ・日本臨床腫瘍学会 特別顧問 西條 長宏
- ・東京大学大学院医学系研究科生物統計学 教授 大橋 靖雄

17. 認定後の各種手続きと認定継続要件等

認定者のうち希望する方は、NPO 法人がんサーネットジャパン事務局内「BEC/CIN 認定継続フォローアップ委員会」に登録頂きます。登録時より3年間の管理登録料として、登録時に15,000円を申し受けます。

当委員会は、認定者の認定継続と質の管理、フォローアップのための研修・情報発信等を行います。認定は3年間の更新制となり、下記、＜認定継続に必要なポイントの内容について＞に定める認定継続要件である15ポイント以上の活動を必須とします。認定者の継続学習や認定継続に関する窓口は、全てこの委員会が行います。

4年目以降の認定継続についても、上記と同様の条件にて3年毎の更新とします。更新時には15,000円の更新料を申し受けます。

＜認定継続に必要なポイントの内容について＞

1. 継続学習の機会への参加
 - *自己申告によるシンポジウム・セミナーへの参加 1ポイント
 - *CNJが推薦するイベント、委員会が企画する研修会参加 2ポイント
 - *CNJが推薦するがん関連学会 3ポイント
2. 相談活動（ケースレポート1件につき） 3ポイント
3. 講演等の啓発活動 3ポイント

18. 認定後の活動の可能性

本養成講座を受講され、修了・認定された方々は、ご自身の仕事の中で、またはボランティア活動や患者会活動において、本プログラムで習得されたがん医療情報の基本的知識、最新の情報へのアクセスのスキル等を活用頂いております。

更に、NPO 法人がんサーネットジャパンが企画・運営する各種セミナー・プログラム（「CNJ がん情報ステーション」、「CNJ がん医療セミナー」、「外部研修プログラム」など）での活動、あるいは民間企業、自治体等によるがん医療啓発活動での講演などでも活躍されています。

19. 第8期生がん情報ナビゲーター養成講座カリキュラム

※担当講師は変更される場合があります。変更の際はホームページ等で案内致します※

講義	公開日時	講義 予定 時間	科目	担当講師
1	7月6日	40	CIN養成講座オリエンテーション	キャンサーネットジャパン 柳澤 昭浩
2		60	知っておくべき近年のがん医療環境の現状	日本医療政策機構 埴岡 健一
3	7月20日	60	がんにおける臨床試験と生物統計	国立がん研究センター 山本 精一郎
4		60	がんにおけるEBMとガイドライン	日本医科大学武蔵小杉病院 勝俣 範之
5		60	がんの治療戦略概要：手術・放射線・化学療法など	東京大学 後藤 悌
6	8月3日	60	がん医療における緩和ケア（主として疼痛緩和）	東京大学 岩瀬 哲
7		60	がん医療におけるサイコオンコロジーとは？	埼玉医科大学国際医療センター 大西 秀樹
8	8月17日	60	インターネットを使ったがん医療情報の収集	東京大学 後藤 悌
9		60	がんに対するサプリメントなど代替療法	早稲田大学 大野 智
10		60	がん検診の目的とあるべき姿	国立がん研究センター 斎藤 博
11	8月31日	60	がん薬物療法の概要：抗がん剤の分類・作用・副作用など	杏林大学 野村 久祥
12		60	放射線治療の概要：放射線治療の適応・作用・副作用など	神奈川県立がんセンター 中山 優子
13	9月14日	60	消化器がん①（主に上部消化管がん：胃がん・食道がん） 疫学・診断・治療の実際	神奈川県立がんセンター 円谷 彰
14		60	消化器がん②（主に下部消化管がん：大腸がん） 疫学・診断・治療の実際	埼玉県立がんセンター 山口 研成
15		60	消化器がん③（その他の消化器がん：膵臓がん・肝臓がん など）	杏林大学 古瀬 純司
16	9月28日	90	肺がん：疫学・診断・治療の実際	横浜市立大学附属 市民総合医療センター 坪井 正博
17		90	乳がん：疫学・診断・治療の実際	昭和大学 中村 清吾
18	10月12日	60	泌尿器のがん①（前立腺がん）：疫学・診断・治療の実際	東京厚生年金病院 赤倉功一郎
19		60	泌尿器のがん②（腎細胞がん・膀胱がん） 疫学・診断・治療の実際	帝京大学 堀江 重郎
20		60	泌尿器のがん③（精巣腫瘍）：疫学・診断・治療の実際	京都府立医科大学 三木 恒治
21	10月26日	60	脳・神経の腫瘍（成人・小児）：疫学・診断・治療の実際	国立がん研究センター中央病院 成田 善孝
22		60	小児のがん：疫学・診断・治療の実際	国立がん研究センター中央病院 牧本 敦
23	11月9日	60	血液腫瘍①（白血病）：疫学・診断・治療の実際	聖路加国際病院 大島 久美
24		60	血液腫瘍②（悪性リンパ腫）：疫学・診断・治療の実際	神奈川県立がんセンター 橋本千寿子
25		60	血液腫瘍③（多発性骨髄腫など）：疫学・診断・治療の 実際	JR東京総合病院 奥田 慎也
26	11月22日	60	婦人科がん①（卵巣がん）：疫学・診断・治療の実際	埼玉医科大学国際医療センター 藤原 恵一
27		60	婦人科がん②（子宮がん他）：疫学・診断・治療の実際	相模野病院 上坊 敏子
28	12月7日	60	骨・筋肉のがん①（骨肉種）：疫学・診断・治療の実際	国立がん研究センター中央病院 川井 章
29		60	骨・筋肉のがん②（軟部肉腫）：疫学・診断・治療の実際	国立がん研究センター中央病院 川井 章
30		90	CIN養成講座総括講義：近年のがん診療の進歩と将来	日本臨床腫瘍学会事務局 西條 長宏

【引用参考文献・Website】

- 1) がん対策情報センターホームページ <http://ganjoho.ncc.go.jp/public/statistics/pub/statistics01.html>
- 2) Berry, D. A. et al. N Engl J Med 2005;353:1784-1792
- 3) 第1回がん患者大集会ホームページ <http://www.daishukai.net/main.html>
- 4) 向井博文. 国立がんセンター東病院を受診した「乳がん遠隔転移・遠隔再発例」の78例（2003年2月からの2年間）を対象に、標準治療が的確に実施されたか、実施された治療法が妥当であるかについて検討。「乳癌の臨床」2005年10月
- 5) 渡辺亨. 山王メディカルプラザのセカンドオピニオン外来を、2003年9月からの2年間に訪れた乳癌患者175名の評価。「死の臨床」06年9月
- 6) 厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/topics/2006/02/tp0201-2.html>
- 7) がん対策情報センターホームページ <http://ganjoho.ncc.go.jp/>
- 8) がん対策基本法 <http://law.e-gov.go.jp/announce/H18HO098.htmls>
- 9) がん対策推進基本計画 <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/06/s0615-1.html>
- 10) http://ganjoho.ncc.go.jp/hospital/consultation/program01_qa.html
- 11) 「情報の非対称性」に関する論文
<http://www.si.gunma-u.ac.jp/~nakajima/10kinen.pdf#search='%E6%83%85%E5%A0%B1%20%E9%9D%9E%E5%AF%BE%E8%B1%A1%E6%80%A7'>
- 12) 米国国立がん研究所ホームページ <http://www.cancer.gov/>
- 13) 米国NCCN (national Comprehensive Cancer Network) ホームページ <http://www.nccn.org/>
- 14) 米国対がん協会 (American Cancer Society) <http://www.cancer.org/docroot/home/index.asp>
- 15) 「パンキャン」ホームページ <http://www.pancan.org/> 米国すい臓がん患者団体
- 16) ランス・アームストロング財団ホームページ
<http://www.livestrong.org/site/c.jvKZLbMRIsG/b.594849/k.CC7C/Home.htm>
- 17) 米国対がん協会 (American Cancer Society) がん相談コールセンターホームページ
http://www.cancer.org/docroot/ESN/content/ESN_3_1X_ACS_National_Cancer_Information_CCenter.asp?sitearea=ESN

【養成講座に関する問合せ先】

NPO 法人キャンサーネットジャパン

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-10-2 御茶の水 K&K ビル 2F

電話：03-5840-6072 ファックス：03-5840-6073

メール：info-cin@cancernet.jp

【受講申し込みに関する問合せ先】

株式会社日本医療事務センター ニック教育講座

電話：0120-29-4153 メール：kyouiku@nicjp.co.jp